

令和7年度学校経営の改革方針

津市立芸濃中学校

【学校経営の改革方針】

1 学校教育目標：夢を持ち自立に向かう生徒の育成～人を大切に～

《めざす学校像》

- ◎明るく活気に満ちた学校
- ◎一人ひとりが安心して生活できる学校
- ◎さらなる向上を目指し、お互いを高めあう学校

《目指す生徒像》

- ◎自ら課題を見つけ、仲間とともに議論し解決に向けて行動する生徒
- ◎仲間の思いに耳を傾け、安心して思いを語り合える生徒
- ◎地域と語り、地域を愛し、地域の一員として主体的に行動する生徒

《学校教育の基盤の考え方》

- ◎学校教育の核は授業であるという認識に立った教育実践
- ◎目の前の子どもの姿（集団と個）を出発点にする教育実践
- ◎チームで子どもを育てるという意識と教育実践

2 現状と課題

- ① 学校生活全般において仲間とともに前向きに取り組む姿が見られる。課題としては、学力の定着がなされない現状がある。家庭学習において、目標を明確に持たせ、自ら家庭学習に向かう力を身につけ、学力の定着を図る必要がある。
- ② 人権教育では、自分自身に目を向け、他者とつながり合う学習を推進しているが、日常生活で軽はずみな言動で他人を傷つけたり、それを他人事ととらえ傍観してしまったりする事案がある。常に相手(仲間)を尊重し、人生を生きていくにあたって差別や偏見を許さない個の育成と集団づくりを、継続的に進める必要がある。
- ③ 学校運営協議会での議論も踏まえ、各地域団体等と連携して、「地域とともにある学校づくり」を進めてきた。特に生徒会においては、学校運営協議会をはじめ地域の団体と直接対話し、自分達にできることを考えることを始めている。今後も、地域・保護者・生徒が同じテーブルで協議し、目指す生徒像にむけた取り組みを進める必要がある。
- ④ 子どもの育ちを最優先に、教職員の真摯な取り組みにより学校運営が進められている。教職員の時間外労働については改善されつつあるが、教育委員会が示す目標値には達していない。総勤務時間縮減を進めるため、根本的なカリキュラムの見直しなどを進める必要がある。

3 重点目標

- ① 一人ひとりの学びを保障する授業づくりと、自ら家庭学習に向かう自立(自律)した学習者の育成
- ② 他者との対話によって豊かな感性と確かな実践力を身につけ、よりよく生きる力を育む教育の推進
- ③ 地域・保護者・生徒がともに語り考える学校づくり
- ④ 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組みの強化

4 具体的な行動計画 (①、②は1・2学期末にアンケート調査を実施)

- ① 一人ひとりの学びを保障する授業づくりと、自ら家庭学習に向かう自立(自律)した学習者の育成
 - ・「芸濃中授業づくりの柱」と「芸濃中学校区学びの約束」を軸に授業力向上に努め、深い学びの実現を目指した授業研究を行い、積極的に公開する。なお、英語・数学においては、TTや少人数授業の利点を生かした指導に取り組む。
 - ・タブレット端末については必要な時に効果的に活用し、アナログ教材とのハイブリッドにより、思考を深め、情報を集めたり整理したりし、考えたことを表現する力を育む。
 - ・自ら家庭学習に向かう習慣を身につけさせ、学力の定着を図る。成果の分析を通して、自分に合った学習方法を習得させる。
- ② 他者とのかかわりによって豊かな感性と確かな実践力を身につけ、よりよく生きる力を育む教育の推進
 - ・人を大切にするため、個の育成と集団づくりを進めるとともに、学年の積みあげを大切にしたい取り組みを進める。ネット社会に対応しつつ、人とのつながりを作るため対話を大切にさせる。
 - ・生徒に学校づくりへの主体者意識を育むために、生徒会活動の意味を周知し、社会的課題や地域の課題解決に向けた取組を進める。
 - ・保幼小中での連続した人権教育カリキュラムによる実践を推進する。
- ③ 地域・保護者・生徒がともに考える学校づくり
 - ・学校運営協議会の機能を用いて、地域の団体（PTA、まちづくり協議会、雲林院社会教育推進委員会等）との効果的な連携を進める。地域行事については、生徒会が主体的な参画をするため、地域と生徒会での対話を実施する。
 - ・学校行事、学年行事、授業などの学校教育活動を積極的に公開する。
- ④ 教職員の総勤務時間縮減に向けた取り組み
 - ・学校部活動運営方針を遵守した部活動運営を行うとともに、すべての部の複数顧問体制や縮減した放課後の部活動時間での活動を継続する。
 - ・職員会議や研修会等の時間を60分以内とする。
 - ・学校経営や分掌等の取組に対し文書管理・データ保存をさらに徹底し、スムーズな引継ぎを実践する。